

令和7年度 東京都立大森高等学校 学校経営報告

(定 時 制 課 程)

校 長 池 田 美 穂

I 目指す学校

スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、心身の健全な発達を図り、良識ある有益な人物を育成します。生活規律・授業規律を重視し、誰もが安心して学べる環境を確保するとともに、地域に根差し、信頼される学校を目指して、生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な支援を行うことで、自立や社会参加に必要な資質と能力を育成します。

教育目標

- (1) 豊かな個性と自主・自立の精神をそなえた生徒を育成する。
- (2) 正義と自由を尊び、規律を守る生徒を育成する。
- (3) 社会へ奉仕する心や他者に対する思いやりの心を持ち、人権感覚を備えた生徒を育成する。

II 今年度の取組と自己評価 (A:高度に達成、B:おおむね達成、C:もう一步、D:抜本的改善が必要)

1 教育活動への取組と自己評価

(1) 教育活動・学校経営全般

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|--|--|----------|
| <p>ア 様々な文化のシャワーを惜しみなく注ぎかけることで、在学中の学習意欲を喚起し、卒業後も生涯に渡り学び考え行動できる生徒を育てる。4年間在学する定時制教育の良さを最大限取組に生かす</p> <p>イ 全ての教職員が主体的に学校経営参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たしながら、建設的な改善提案のできる職場風土を醸成する。</p> <p>ウ サービス事故ゼロ、学校事故ゼロを実現する。</p> <p>エ 生徒の心身の健康保持増進のために、教育活動に取り組む教職員の適正なライフ・ワーク・バランスを図る。</p> <p>オ 経営企画室機能を最大限活用し、人財や施設設備等の校内資源を最大限活用しながら、教育環境の向上を図る。</p> | <p>・様々な学校行事と東京都教育委員会指定事業を通して、生徒が幅広い体験的、協調的な体験を行うことができた。</p> <p>SIP事業では、参加者1名のみだった。</p> <p>・学校運営連絡協議会を年3回実施し、地域の健全育成、就学年齢者状況、夜間定時制高校のニーズ等、様々な意見・評価を頂き、すべての教職員と共有することで、学校経営に活かした。</p> <p>・考査期間シュレッダー使用禁止等、個人情報紛失防止に引き続き努めた。</p> <p>・会議のペーパーレス化を進めた結果、時間短縮が図れた。</p> <p>・働き方改革を推進し、年次休暇取得15日以上90%を達成した。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・本校に入学して良かったと思う生徒：95% (14ポイント上方)</p> <p>・「近隣に学校の様子を公開している」肯定的回答 地域：43.8% (5.3ポイント上方)</p> <p>・学校評価アンケートの保護者回答率：20.0% (昨年度とほぼ同じ)</p> <p>・「教職員が体罰や暴言を行わないように取り組んでいる」肯定的回答 生徒：85.0% (18.74ポイント上方)、教職員：100%</p> <p>・教職員の在校時間の縮減を図っていると回答した教職員：100% (昨年度と同じ)</p> | <p>A</p> |

(2) 学習指導

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|--|---|------|
| <p>ア 日々の授業を大切にすることで基礎基本の学力の確実な定着を図る。</p> <p>イ 知識・技能だけでなく主体的に学びに向かう力を育成し、自ら考えて課題解決に至ることができるよう、思考力・判断力・表現力を鍛える。</p> <p>ウ 情報機器を適切に活用し、収集した情報について有用性や正誤の判断を自ら行いながら取舍選択して理解を深め、発信ができる力をつける。</p> | <p>・入学者選抜の学力分析、定期考査結果や生徒による授業評価アンケート等を踏まえて、担当教員による学力分析、教務部を中心とした全教員による意見交換等を行い、生徒の基礎学力を充実させる指導を行った。</p> <p>・生徒の学習到達度に応じた課題を提示し、個別指導の充実を図った。</p> <p>・全日制と連携して漢字検定試験を実施した。</p> <p>・特別な教育課程による日本語指導を行い、外国籍の生徒に対し、組織的な指導を行った。</p> <p>・すべての教科で、一人一台端末等を用いた学習活動により、教育内容・方法の改善を図った。年間使用率50%以上は、8教科中4教科だった。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・授業が分かりやすいと思う生徒：95.0% (18.9ポイント上方)</p> <p>・本校で学力がついたと思う生徒：75.08% (5.1ポイント下昇)</p> <p>・図書館の利用や読書について適切に指導が行われていると回答した生徒：70.0% (6.1ポイント下方)</p> | B |

(3) 生活指導

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|---|--|------|
| <p>ア ルールとマナーの必要性を理解させ、人権と生命を尊重する、礼儀正しい森高生であることを求め続ける。</p> <p>イ 生徒が自らの未熟さと相手の立場とを理解し、適切なコミュニケーションがとれるように考えたり実践したりする場を設ける。</p> <p>ウ 時間を意識して行動し、準備を怠らない。</p> <p>エ 清掃や整頓に進んで取り組み、居心地のよい校内環境を維持する。</p> | <p>・生徒、教職員共に挨拶を励行し、生徒の状況を把握し、学校生活や学習に向かう意欲の向上に取り組んだ。各行事や集会指導において、授業時のマナーや聞く姿勢等について繰り返し指導を行った。部活動を通して、社会に通じる態度やマナーを身につけさせた。</p> <p>・自転車通学者のヘルメット着用率は71.4%だった。</p> <p>・遅刻者数は1日2人以下(1.26人)であった。</p> <p>・自立支援担当を中心に、生徒の情報共有を深め、保護者と連携した指導を行ったが、中途退学者数3名となった。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・生活指導が適切に行われていると回答した生徒：75% (昨年度と同じ)</p> | B |

(4) 進路指導

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|--|--|----------|
| <p>ア キャリア教育の観点から授業や特別活動と「総合的な探究の時間」を意図的計画的に関連付け、単なる出口指導にとどまらない進路指導を行う。</p> <p>イ 学年進行に応じた計画的な指導を行い、個に応じた丁寧な対応を継続することで、進路希望を諦めさせない。安易に転退学の選択をさせない。</p> <p>ウ 進路実現が日々の学習や学校生活と一体化したものであることを意識づける。</p> <p>エ 公募される様々な機会をとらえ、生徒にとって生涯にわたり知識を広め経験を深めるチャンスであることを教職員が意識し、紹介する。</p> | <p>・ユースソーシャルワーカーと連携し、生徒自身の進路について多角的に考えさせる機会を増やした。</p> <p>・公的機関等と連携した社会的・職業的自立教育プログラムを実施するなどして、生徒の進路意識を高めた。</p> <p>・進路指導部と学年との連携を密にし、早期に進路決定100%を達成した。</p> <p>・ジョブキャンプ参加者は1名にとどまった。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・進路指導に満足と回答した生徒：70.0% (3.3ポイント上方)</p> | <p>A</p> |

(5) 特別活動

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|--|---|----------|
| <p>ア 教職員は正しく「いじめ」の定義を理解し、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。</p> <p>イ HRや行事を通じ、協力や助け合いの経験を通じ多様な価値観や立場の違いを知り、社会で生きる力を育成する。</p> <p>ウ 安全教育推進校として防災教育の充実に取り組む。</p> <p>エ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを楽しんだり、努力して成果を得る体験をしたりする場を多数設定し、学校の居心地を高め、心身ともに健康で明るい学校生活にする。</p> <p>オ 特別支援教育への理解を深め、組織的な教育相談体制を構築する。</p> <p>カ 給食の喫食率を高め、食育を推進する。</p> | <p>・教育相談連絡会等を通じ、組織的にいじめの未然防止に取り組み、いじめの件数0を維持できた。</p> <p>・生徒が中心となる文化祭を実施し、生徒の達成感が向上した。</p> <p>・防災教育、交通安全教育を工夫し、生徒が主体的協働的な学びを深めることができた。</p> <p>・生徒による部活動紹介や部活動推進週間により、部活動の活性化を実現できた。部活動加入率は、81.8%だった。</p> <p>・スクールカウンセラーを活用し、教員との連携を深め、安心・安全な学習環境の確保に努めた。問題行動発生件数は0件だった。</p> <p>・給食費無償化と食育の推進により、喫食率が約90%とほぼ全員が喫食した。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・学校行事が充実していると思う生徒：90.0% (昨年度と同じ)</p> <p>・部活動が充実していると思う生徒：70.0% (6.1ポイント下方)</p> <p>・悩みや相談したいことについて、先生に気軽に相談できると思う生徒：80.9% (4.1ポイント上昇)</p> | <p>A</p> |

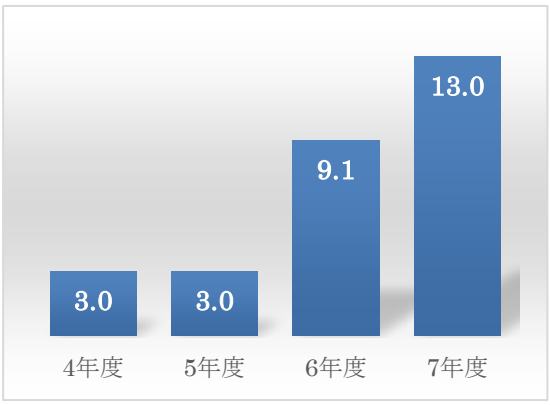
(6) 募集広報活動

| 目標と方策 | 取組と学校評価 | 自己評価 |
|---|---|----------|
| <p>ア 学校説明会・見学会だけでなく、中学校訪問や地域交流行事等に積極的に参加し、学校の露出を増やす。</p> <p>イ 生徒の姿が見える広報活動を意図的に</p> | <p>・教職員全員が複数回参加の全校態勢で取り組んだ。中学校だけでなく、不登校生徒が通う適応教室への訪問と、出張説明会を実施した。</p> | <p>A</p> |

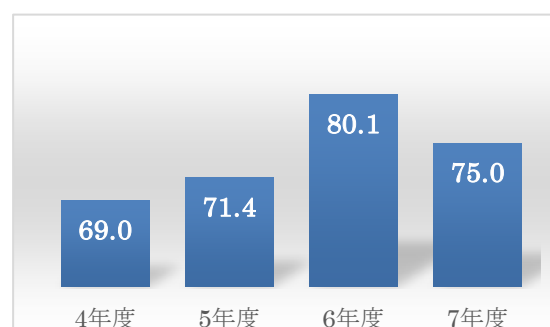
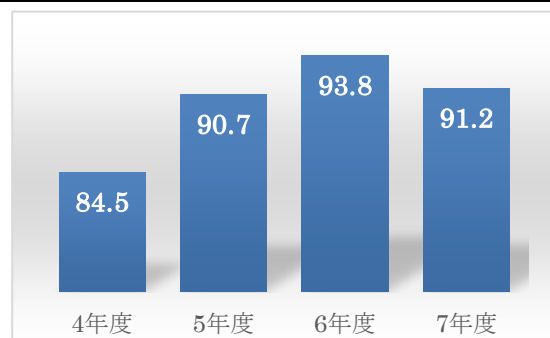
| | | |
|---|--|--|
| <p>計画する。 ウ 学校ホームページだけでなく、SNSを活用し、積極的な情報発信を行う。 エ 視覚情報の充実した広報媒体を作成する。 オ 夜間定時制ならではの、の特色をアピールする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・X（エックス）を活用した情報発信を毎週行い、学校の露出を増やした。ホームページを含め更新回数は90回だった。 ・中学校訪問、合同説明会等で配布するクリアファイルや学校パンフレットに添付する資料を工夫して、定時制の特色をアピールした。 | |
|---|--|--|

2 重点目標への取組と自己評価


(1) 中途退学防止【中途退学率の減少】

| 中途退学率 | 数値目標 | 実績 | 取組と自己評価 | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|------|---|
|  <table border="1"> <caption>中途退学率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>6年度</td> <td>9.1</td> </tr> <tr> <td>7年度</td> <td>13.0</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 | 率 (%) | 4年度 | 3.0 | 5年度 | 3.0 | 6年度 | 9.1 | 7年度 | 13.0 | 0% | 8.7% | <ul style="list-style-type: none"> ・SC、YSWと連携した教育相談体制の強化により、個別の指導を充実させた。 ・SCの生徒相談延べ66人、教員との情報交換31回。 ・退学者2人は入学当初から不登校、もう1人は怠学。 <p>【自己評価】B</p> |
| 年度 | 率 (%) | | | | | | | | | | | | |
| 4年度 | 3.0 | | | | | | | | | | | | |
| 5年度 | 3.0 | | | | | | | | | | | | |
| 6年度 | 9.1 | | | | | | | | | | | | |
| 7年度 | 13.0 | | | | | | | | | | | | |

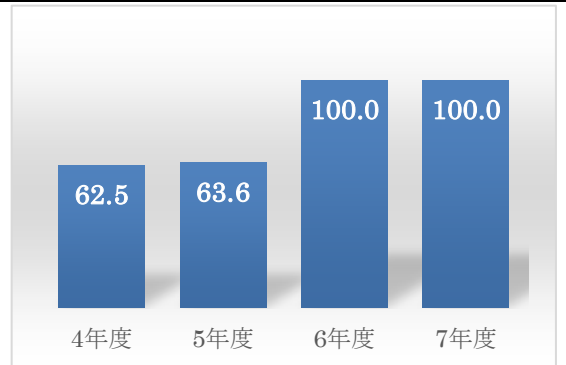
(2) 学習指導【基礎基本の定着、学力向上、出席率の向上】

| 学力がついたと感じる生徒の割合 | 数値目標 | 実績 | 取組と自己評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------|--------|---------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-------|-------|---|
|  <table border="1"> <caption>学力がついたと感じる生徒の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>71.4</td> </tr> <tr> <td>6年度</td> <td>80.1</td> </tr> <tr> <td>7年度</td> <td>75.0</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 | 割合 (%) | 4年度 | 69.0 | 5年度 | 71.4 | 6年度 | 80.1 | 7年度 | 75.0 | 80%以上 | 75.0% | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習到達度に応じた課題を提示し、個別指導の充実を図った。 ・外国籍の生徒に対する日本語指導を、より充実させた。 ・ICT機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫をした。 <p>【自己評価】B</p> |
| 年度 | 割合 (%) | | | | | | | | | | | | |
| 4年度 | 69.0 | | | | | | | | | | | | |
| 5年度 | 71.4 | | | | | | | | | | | | |
| 6年度 | 80.1 | | | | | | | | | | | | |
| 7年度 | 75.0 | | | | | | | | | | | | |
| 出席率の向上 | 数値目標 | 実績 | 取組と自己評価 | | | | | | | | | | |
|  <table border="1"> <caption>出席率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>84.5</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>90.7</td> </tr> <tr> <td>6年度</td> <td>93.8</td> </tr> <tr> <td>7年度</td> <td>91.2</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 | 率 (%) | 4年度 | 84.5 | 5年度 | 90.7 | 6年度 | 93.8 | 7年度 | 91.2 | 90%以上 | 91.2% | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の声掛けやコミュニケーションをとることで、生徒の居場所づくりに努めた。 ・家庭やSC、YSWと連携し、生徒の頑張りを支援した。 <p>【自己評価】A</p> |
| 年度 | 率 (%) | | | | | | | | | | | | |
| 4年度 | 84.5 | | | | | | | | | | | | |
| 5年度 | 90.7 | | | | | | | | | | | | |
| 6年度 | 93.8 | | | | | | | | | | | | |
| 7年度 | 91.2 | | | | | | | | | | | | |

(3) 生活指導・特別活動 【部活動加入率の増加】

| 部活動加入率 | 数値目標 | 実績 | 取組と自己評価 | | | | | | | | | | |
|---|---------|---------|---------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-------|-------|---|
|  <table border="1"> <caption>部活動加入率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>加入率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>90.5</td> </tr> <tr> <td>6年度</td> <td>85.7</td> </tr> <tr> <td>7年度</td> <td>81.8</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 | 加入率 (%) | 4年度 | 69.0 | 5年度 | 90.5 | 6年度 | 85.7 | 7年度 | 81.8 | 80%以上 | 81.8% | <ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月、1月に部活動推進週間を設定し、加入促進を図った。軽音楽部が多く of 発表を行い、総合運動部による個に合わせた部活動を推進した。 ・学校行事への参加を全教員で呼びかけ、事前指導の強化により、参加率延べ80%を維持できた。 <p>【自己評価】 A</p> |
| 年度 | 加入率 (%) | | | | | | | | | | | | |
| 4年度 | 69.0 | | | | | | | | | | | | |
| 5年度 | 90.5 | | | | | | | | | | | | |
| 6年度 | 85.7 | | | | | | | | | | | | |
| 7年度 | 81.8 | | | | | | | | | | | | |

(4) 進路指導 【進路決定率の向上】

| 進路決定率 | 数値目標 | 実績 | 取組と自己評価 | | | | | | | | | | |
|---|---------|---------|---------|------|-----|------|-----|-------|-----|-------|--------|------|--|
|  <table border="1"> <caption>進路決定率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>決定率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>63.6</td> </tr> <tr> <td>6年度</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>7年度</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 | 決定率 (%) | 4年度 | 62.5 | 5年度 | 63.6 | 6年度 | 100.0 | 7年度 | 100.0 | 100%以上 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報提供、ガイダンス体制を強化し、個別の指導の充実を強化した。 ・全教職員とY S Wが関わり、生徒の適性に応じた進路選択や面接等試験対策を繰り返し行った。 <p>【自己評価】 A</p> |
| 年度 | 決定率 (%) | | | | | | | | | | | | |
| 4年度 | 62.5 | | | | | | | | | | | | |
| 5年度 | 63.6 | | | | | | | | | | | | |
| 6年度 | 100.0 | | | | | | | | | | | | |
| 7年度 | 100.0 | | | | | | | | | | | | |

(5) 学校経営・組織体制

服務事故防止研修を年3回実施し、事例検討により理解を深めた。定期考査中のシュレッダー禁止等、個人情報事故防止に組織的に取り組んだ。

Ⅲ 次年度の主な課題と改善策

(1) 中途退学防止

在校する生徒の中には、これまでの学校生活で、不安な思いや不登校の経験のある生徒もいることから、不安な要素を取り除いたり、解決したりして、学校生活を続けられるように支援を行うことが必要である。

そのために、特に一年生では、入学後まもなくスクールカウンセラーとの全員面接や全学年によるグループエンカウンターなどを実施する。その他の学年においても、進級、卒業や将来への展望が持てるよう、進路指導の充実を図りながらスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、保護者や関係機関と連携し、その生徒にとってよりよい方策をとれるように努める。

(2) 学習指導

「学力がついた」と感じている生徒の比率が若干下がったが、生徒の学習歴や到達度は様々であり、個別の目標設定など、生徒の興味関心や状況に応じた指導の充実が一層重要である。学習の成果が見て取れるような課題の提示の仕方や、各種検定試験に挑戦させるなど、生徒自身が学びの成果を実感できる手立ての一層の工夫が必要である。

さらに、オンライン授業や一人一台端末を活用した授業についての研修や創意工夫に取り組む、教員の授業力向上に努めなければならない。

(3) 生活指導・特別活動

近年は、校内における生徒間や対教師に対する大きな問題行動は、発生していない。誰もが安心・安全に学習できる環境整備に努めるとともに、心身の不調に対応できるよう、対外関係諸機関との連携を密にしながら教職員のカウンセリングマインドのさらなる涵養に努めていく必要がある。

部活動・特別活動については、生徒の興味・関心に応じた学校行事の見直し・検討を重ね、部活動のさらなる充実を図り、生徒の活動の場を広げ、生徒の達成感や充実感を高める。

(4) 進路指導

今年度は、より早期からの進路指導を充実させ、全員の進路決定を達成できた。次年度以降も、早期から進路意識を高め、複数の選択肢について考える機会を作るなど、多方面からアプローチできるよう、進路行事等の一層の充実を図る。

(5) 学校経営・組織体制、その他

少人数のため、個人の力量に任されがちになってしまうが、担当以外の業務においても学校実務の理解を深め、OJTを進める。また、全教職員の学校経営参画意識を高め、組織的な学校経営を推進する。

服務事故防止については、自己点検や相互チェックを行い、慣れによるミスが起こらないよう引き続き、緊張感と安心感を両立した職場風土を醸成していく。